

# び〜・さぼ

第4号  
2023年10月  
(令和5年)

<公式HP>



<https://tkenbi-ouendan.jp/>

<発行> とっとり県美応援団

「パワーアップ研修会」 滋賀県大津市の同県立美術館などを視察 参加者 34人  
6月17日（土）

参加者は朝早くにバスで倉吉などを出発し、滋賀県では初めて古刹・石山寺を見学しました。境内には国宝の本堂や多宝塔などがあり、この寺に参詣した際に「源氏物語」の着想を得たと伝わる紫式部の像が置かれた「紫式部の間」などを見て回りました。

滋賀県立美術館では木村元彦副館長から同美術館のあゆみや、美術館をくつろぎの場として位置付ける「リビングルームのような美術館」への取り組みなどについて説明を受けた後、開催中の「小倉遊亀と日本美術院の画家たち展」を鑑賞しました。会場には滋賀県出身の日本画家・小倉遊亀（1895-2000年）とその師匠の安田靉彦、後に小倉が理事長を務める日本美術院に所属していた横山大観、菱田春草、速水御舟らの作品が並びます。参加者は島根県立美術館にも在籍していたことがある田野葉月主任学芸員の分かりやすい解説を聞きながら、熱心に作品に見入っていました。



## 鳥取県立美術館 上棟記念イベント 5月14日（日）

雲間から鮮やかな青空も垣間見えるほど清々しい気候に恵まれ、総勢4,000人が集まった。餅つき大会や餅まき・菓子まきの他、館内初公開エリアや今しか行けない屋上の見学、建設現場ならではの職業体験、コンクリートの壁や床へのお絵かき、話題の収蔵作品にちなんだ創作ワークショップ等、どのブースもとても賑やかな雰囲気でした。



餅まき・お菓子まき大会熱狂の瞬間！！

大人の目線では気づかないところに子どもたちは興味津々！ガイドに質問する場面もありました。

美術展覧会 / らくがきばんざい！

# 旧国鉄倉吉線廃線跡に整備された「緑の彫刻プロムナード」を歩く研修会 地元にある芸術作品を17人参加 6月24日（土）



プロムナードは、廃線跡をまちの活性化に役立てようと市が跡地を購入して整備し1991（平成3）年に供用開始されました。倉吉市のトリエンナーレの発端となった「倉吉：緑の彫刻賞」受賞作家らに依頼して制作された野外彫刻が約2キロの遊歩道に沿って配置されています。

研修会では倉吉博物館の根鈴輝雄館長の案内で旧打吹駅側から見て回り、根鈴館長が話す制作作家のこぼれ話などを興味深く聞きました。

参加者の多くはプロムナードを知っていましたが「説明を聞きながら歩くのは全く違う」などの感想が聞かれました。



## 県美開館に向けて機運高める、県美応援団フォーラム

「目指せ年間100万人！」 「市を元気に」 決意語る 新日本海新聞社中部本社 4月15日（土）

鳥取県立美術館開館に向けて官民で機運を高めようと「2年後の美術館開館に向けて私たちの覚悟」と題したフォーラムを開き、参加者が決意を新たに組み合わせることを確認しました。

フォーラムには倉吉市の広田一恭市長、倉吉博物館の根鈴輝雄館長、倉吉商工会議所青年部の平真会長が登壇し、佐伯健二団長のコーディネートで議論を交わしました。

同美術館開館に向けて広田市長は「倉吉市にはたくさんの観光資源があり、開館を機に市内を周遊・滞在してもらえるよう市民と一緒に取り組み、市を元気にしたい」と語り、根鈴館長は入場者年間18万人を挙げ、「みんなで一緒に出す数字。共に頑張っていきたい」と表明。

県立美術館成功に必要なこととして広田市長は「市民一人ひとりが自分のできることで協力すること」を、根鈴館長は「訪れた人をもてなし、倉吉を伝えること」を挙げました。平会長は「県美は、交流・関係人口を増やす最大のチャンス」として最低年間50万人を見据え「目指せ100万人と大きく夢を語り市民が倉吉を知り、誇りに思うことが大切、訪れた人が満足してもらうまちになるようしっかり取り組む」と決意を述べられました。



第3回ファシリテータ研修に参加して  
8月6日（日）  
佐伯恵美子

「恐竜の口が入り口なんだ」「その時にガオツと声が出るの」そんな美術館を夢見ていた。

県立美術館は、もちろん皆の美術館だけど、子ども達に特に親んでもらいたいなあ、と思っています。

ま、恐竜の入り口は実現しませんでした(笑)ファシリテータの研修を受けています。

私のターゲットは「子ども」。子ども達にたくさんの絵や彫刻などを見てもらいたい。それも小さい頃から。そのような機会を持てなかった自分の経験からそう思います。

美術館で絵を見ている小さな頃の自分。そこにファシリテータの大人の人がいて、会話しながら絵を鑑賞する・・・考えただけでもワクワク、ジンジンする。

だからファシリテータをしたいんです

## 応援団の活動を支援する寄付のお願い

当応援団は、鳥取県が行う「NPO法人や住民団体等の地域づくり活動をふるさと納税によって支援する新たな仕組み【ギフ鳥（ぎふとり）】」の寄付対象団体として認められています。

この寄付の仕組みを利用して、私たちの思いを県民の皆さんに届け、活動の輪を拡大させるための広報予算を増やすことが目下の最大の課題です。

どうか応援団を応援してください！

【ギフ鳥】  
とっとり県美応援団  
へのご寄付はこちら



### <寄付金の使い道>

応援団の広報紙『び〜さぼ』の発行やHPの充実などの広報費  
(目標：年間300,000円)



鳥取県ホームページ「【ギフ鳥】持続可能な地域づくり団体支援寄附金」より

## とっとり県美応援団 入会のご案内

一緒に楽しみながら県立美術館を応援して下さる仲間を募集中！

### <活動内容>

(全体) パワーアップ研修会・講演会への参加  
(チーム活動)

- 広報：ホームページ作成・広報紙発行
- 来館者対応：鑑賞活動支援・展示解説・ワークショップ支援など
- 環境：周辺環境美化活動への協力・館内案内協力
- 後方支援：県民の関心を高める取組・PFI事業者等との連携など

### <年会費>

個人会員：1,000円 法人会員：2,000円

## 「とっとり県美応援団」ニュースレター「び〜さぼ」

- ① Be Supporters! (応援団になって!) と
- ② 私たち応援団員=けんび・サポーター 2つの意味があります

### <発行者>

第4号 2023年10月1日 発行  
とっとり県美応援団 団長 佐伯健二 <https://tkenbi-ouendan.jp/>  
お問い合わせ・入会申込みは [tottoriartoendan@gmail.com](mailto:tottoriartoendan@gmail.com)